

総合教育センターだより

116号 平成28年3月発行

山梨県総合教育センター

『今、新しい風を感じる。』

所長 星野真理

3月は、いよいよ草木が芽吹きじっくり培ってきたものが花を咲かせ、実をつけるために次へと繋がる季節です。教員にとっては、児童生徒を教室や学校から送り出す喜びの季節であると同時に、行った教育の中で、児童生徒が何を知り何ができるようになったのか、知っていることやできることをどう使えるようになったのか、どんな力がついたのか振り返る時でもあります。

今、世界の急速な変化に伴い教育界は大きく変わろうとしています。特にアクティブ・ラーニングという言葉はあっという間に広がり多くの関心を集めています。これまでのキャリア教育や総合的な学習の時間といったテーマが浸透し実践されるまでにかかった時間とは比べものにならない速さで広がっています。教員が本気で授業改善に向き合おうという覚悟ができ、自らその方法を考えはじめているとすれば、改革の大きな推進力となることは間違いないでしょう。また、盛んに議論されている中教審の次期学習指導要領における教科の科目構成や内容は、どの教科も同じ方向を目指しています。今後は、学びの経験の総体として、目標とするつきたい力、教材と授業の計画、学ぶ方法、評価、そして教科横断型授業など様々な学びの全てを含む「カリキュラム・マネジメント」と「アクティブ・ラーニング」を連動させた学校経営の展開や授業内容の充実が鍵となってくるでしょう。アクティブ・ラーニングと呼ばれる方法はたくさんありますが、考えるべきは、これから生きていく子ども達が何をどのように学ぶことが適しているかであり、目的に合ったものに色々と挑戦してみる価値はあるはずです。今、教科・領域・学校運営の全てで教員自らが学び、子ども達を育てていこうという新しい風を感じます。

さて、今年度の本センターの研修会には延べ16,000人を超える参加者があり、147校で出前研修を実施しました。研修アンケートには、「教育の新しい流れが分かる。授業づくりの参考になる。演習が充実。教員の学び合いがある。自分が変わる。」など多くの前向きな意見をいただいています。教科・領域におけるセンター研究でも多くの学校と先生方に授業モデルの開発と公開の検証授業に協力をいただきました。学校で、本センターで、他校の公開授業でと、沢山の教員が学んでいる姿は頼もしいかぎりです。教員の変容は生徒の変容を生みます。

来年度も多くの方々に山梨県総合教育センターを利用していただき、教育課題の解決の一助としていただけますように、本センターも更に研修・研究体制を整え、新しい風が確かな風となる教育支援ができるように努めて参ります。

研究発表大会を終えて

研究開発部

延べ1,190名の教職員・教育関係者参加の下で、研究発表大会を開催することができました。午前中の特別講演では、早稲田大学大学院教授の田中博之先生に「児童生徒の学力を高める授業づくり・学級づくり～活用型学力、学級力、家庭学習力の向上を図るには～」と題した講演をしていただきました。中教審の教育課程企画特別部会の論点整理を踏まえて、次期学習指導要領におけるアクティブ・ラーニングについて、「主体的・協働的・創造的な学び」であるとし、様々な手法による「活用型」の学習を取り入れる際の「足場掛け（学びの型・モデル・思考ツール等の児童生徒への提示）」の重要性について述べられました。また、アクティブ・ラーニングの成否の鍵は、学習集団である学級の質であると述べられ、田中先生が開発した「学級力アンケート」についても説明されました。



午後の研究発表では、研修主事の研究・適応指導教室（こすもす教室）の実践・一般留学生の研究について、合計27の研究発表を行いました。それぞれの研究発表では、学校での活用につながる授業モデルや教材等を多数提案することができました。一方、発表数が多かったため、一枠二発表という方法で、研究内容が十分に伝わりきらなかった部分があったと思われます。研究発表大会で発表した内容につきましては、ホームページに掲載されていますので、各学校で活用していただけると幸いです。また、お気づきの点やご質問等がございましたら、研究開発部にお問い合わせください。

教育指導部

学校教育に関わる今日的な課題を踏まえ、教職員の資質能力の向上と意識改革を図り、児童生徒に「確かな学力」などの「生きる力」を育み、学校教育の振興と充実に資するために、各種研修会の企画・運営等を統括するとともに、研修会の質の向上に努めることを運営方針として取り組んできました。授業力向上を図る教科研修会の充実に図るとともに、タブレットなどの情報機器に対応した研修会、いじめ・不登校等生徒指導の充実に関わる研修会、特別支援教育の充実に資する研修会など今日的な課題に対応するため、研修会の更なる充実に努めてきました。また、研修技法として「体験・参加型研修」の導入にも積極的に取り組み、より満足度の高い研修会を目指してきました。その結果、本年度は147の研修会に延べ16,000人余りの先生方に受講していただきました。

平成28年度は県内の先生方が研修を通じ、自身の資質向上だけでなく、学校教育の振興と充実に資することを目的として、広く学校現場で研修の成果を活用していただけるよう「学校組織マネジメント」の視点を重視することより、これまで以上に総合教育センターの機能を発揮できるよう研修会の質的改善に取り組んできたところです。また、本センターの研修会の運営・申込み・受講アンケートや受講者の出欠・受講履歴等の情報管理に関わるシステムである「研修情報システム」が、セキュリティー強化とユーザビリティの向上を目的として今年度よりリニューアルされました。今後も本システムがより活用しやすいように工夫を重ね、多くの先生方が総合教育センターの研修会に参加していただけるよう努力していきたいと考えております。各校におきましては、「研修成果の活用」を念頭に、より多くの先生方が研修会へ参加し、その成果を活用できるようお願いいたします。



研究開発部

センター研究の推進

次年度の研究については、若干研究スタイルを変更し、学力把握調査及び教育課程実施状況調査に関する「プロジェクト研究」と教科や教育相談・特別支援教育に関する「主事研究」に取り組む予定です。

研究開発部は、①センター研究の推進、②一般留学生研究の推進、③教育情報の収集、調査の実施、④学校教育の支援・相談等の業務を担当しています。来年度もこれらの業務を通して、本県の学校教育を支援していきたいと考えています。

一般留学生研究の推進

4月から2名の一般留学生が学校現場（小学校）より派遣されることが内定しています。センター主事及び学校現場の研究協力員の支援体制の下で研究を行うこととなっています。



教育情報の収集・調査の実施

教育図書や雑誌の購入、教育関係機関や県内各学校の研究紀要等の収集に当たります。また、校内研究主題等調査や教育課題調査を実施する予定です。

学校教育の支援・相談

学校教育を支援するために「特別研修会」を計画しています。また、「校内研究の進め方研修会」の開催や校内研究に関する相談業務を通して、各学校の校内研究の活性化・充実のためのお手伝いができるかと考えています。

相談支援部

～児童生徒への支援や対応で困っていませんか？～



相談支援部では、様々な課題を抱える幼児児童生徒の健やかな成長を願い、本人と保護者はもとより、学校と先生方を支援しています。

【教育相談担当】

いじめや不登校等の予防や解決を目指し、児童生徒、保護者及び先生方を対象とした面接相談や電話相談（365日24時間体制で電話相談員が対応）、学校に出向いて研修会やケースに関する相談を実施しています。また、いじめや不登校等の予防や解決に生かせる研修・研究を行い学校に還元しています。

【特別支援教育担当】

発達の遅れやその心配のある幼児児童生徒の教育の充実を目指し、本人、保護者及び先生方を対象とした面接相談や電話相談、学校に出向いて研修会や訪問相談を実施しています。また、特別支援教育の現場に役立つ実践的な研修・研究を行い学校に還元しています。



【適応指導教室（石和・葦崎・都留こすもす教室）】

県内3教室において、不登校児童生徒の心の居場所づくりを第一に考え、人間味のある温かい教室運営を基本に、自立に向けた適応指導や学習指導を行っています。また、保護者や教職員からの相談にも応じています。



情報教育部

★ 希望の高まるICT活用研修会

学校におけるICTの効果的活用に向け、本年度は、5つの領域（喫緊の課題、ICT活用基礎、アプリケーション基礎・応用、ネットワーク及びシステム管理）で計17講座を開講し、定員570名を上回る715名の受講希望がありました。定員・機器等の関係で555名の先生方に受講していただきました。特にタブレット研修会は定員の2倍を超える受講希望があり、多くの受講不可を出す結果となりましたが、一部については2学期にフォローアップ研修を実施しました。また、情報教育に関する出前研修においてもタブレット機器の活用に関する研修希望が増加しています。来年度に向けて、タブレット関係の研修会の一層の充実に向けて取り組んでいますので、多くの先生方の受講をお願いします。



★ 学校を支えるネットワークシステムの運用管理業務

情報教育部では、研修・研究の他に、ハイユースネットやハイユースPC、これに関わるグレープウェア、プラムメールなどの数多くのシステムの運用管理や支援業務を行っています。それぞれ定例会という名称で、県教委・常駐SE・システム開発会社等の担当者により構成され、8つの定例会で、本年は年間で51回実施しました。ネットワーク機器の老朽化による故障対応、OS等のバージョンアップへの対応、さらにセキュリティの確保など、緊急性の高いものが多く、システム担当者は日々対応に追われています。この3月時点でもウィルスメールが頻発しており、プラムメールについてはサーバー側でも対応していますが、心当たりのないメールは開かずに削除するなど自己防衛をお願いします。

★ 「新・研修情報システム」の運用を振り返って

新研修情報システムを運用開始し1年が過ぎましたが、各校の先生方のご協力で、円滑に運用できました。受講後のアンケートがWeb上での回答になり、これまで以上に具体的な意見が多く寄せられるようになり、研修会の改善に役立っています。一方、提出率の低下が見られました。研修改善のためにも、一層のアンケートへのご協力をお願いいたします。



多くの学びと出会いに感謝して
一般留学生 岩下 和子

ふり返ってみると、あっという間の1年でした。これまでの自分の実践をふり返り、その課題にどうやって向き合えばよいのかを学ぶ、貴重な機会をいただきました。研究で悩んだとき、私の周りには支えてくださる多くの方々がありました。自分なりの成果を上げられたのは、指導して下さった先生方、協力して下さった先生方、温かいお声をかけて下さった多くの先生方のお陰であったと、心から感謝しています。また、教育センターでは校種をこえた先生方から、多くのことを学ばせていただきました。それぞれが専門的な知識をおもちの方ばかりで、その先生方との出会いも、私にとっての財産となりました。このご恩をお返しするには、これからの子供たちとの関わりに生かしていくとともに、研究の成果をお伝えすることも必要だと思っています。私が現場に帰ってできること。この1年間で得たことを生かすべく、精一杯取り組んでいきたいと考えています。多くの学びと出会いに感謝して……。ありがとうございました。



学んだことをスタートに
一般留学生 橘田昌樹

この1年間、一つの研究に集中して取り組むことができるという恵まれた環境を与えていただきました。学校現場とは違う学びの場に、最初は戸惑いがありました。しかし、多くの先生方に御指導をいただく中で、少しずつ研究が形となっていくことにやり甲斐を感じ、研究をすることの楽しさを感じることができました。教育センターの先生方だけではなく、協力員の先生方、研究協力校の先生方や子供たち、研修でお会いした講師の先生方。本当にたくさんの方々を支えていただき、研究に取り組むことができました。研究に関わって下さった全ての方々に感謝を申し上げます。今回の研究や研修を通して学んだことをゴールとするのではなく、新たなスタートとして捉え、今後の学校現場での指導に生かしていきたいと思っております。本当にありがとうございました。



平成28年度 研修会申込手続きについて

平成28年度「研修会申込事務説明会」を次の日程で開催いたします。当日は、「新研究主任研修会(107)」の終了後、引き続き本説明会を行います。**各校の申込事務担当者の先生1名は、必ず御参加**くださいますようお願いいたします。このことについては、文書をメールで発送しますので御確認ください。

●日時 4月12日(火) 14:40~17:00 (受付14:10~)

●場所 山梨県総合教育センター大研修室

★**新研究主任研修会(107)は、同日13:40~14:25(受付13:20~)第3研修室で実施されます。**

《研修会申込手続きに関する主な日程》

- 3月中旬 各校へ「研修会申込事務説明会の開催通知」の発送
- 4月12日(火) 「研修会申込事務説明会」
- 4月15日(金) 早期実施研修会申込締切
- 5月9日(月) 第一次受講申込締切(7月21日までの研修会)
- 6月10日(金) 第二次受講申込締切(7月22日以降の研修会)



編集発行 山梨県総合教育センター
山梨県笛吹市御坂町成田 1456
電話 055-262-5571
Fax 055-262-5572
発行責任者 所長 星野 真理
発行日 平成28年3月18日

出前研修を御活用ください



教育センターでは、学校等の研究活動を支援するために講師を派遣する「出前研修」をしています。詳細、及び申込についてはセンターHPを御覧ください。 <http://www.ypec.ed.jp/>